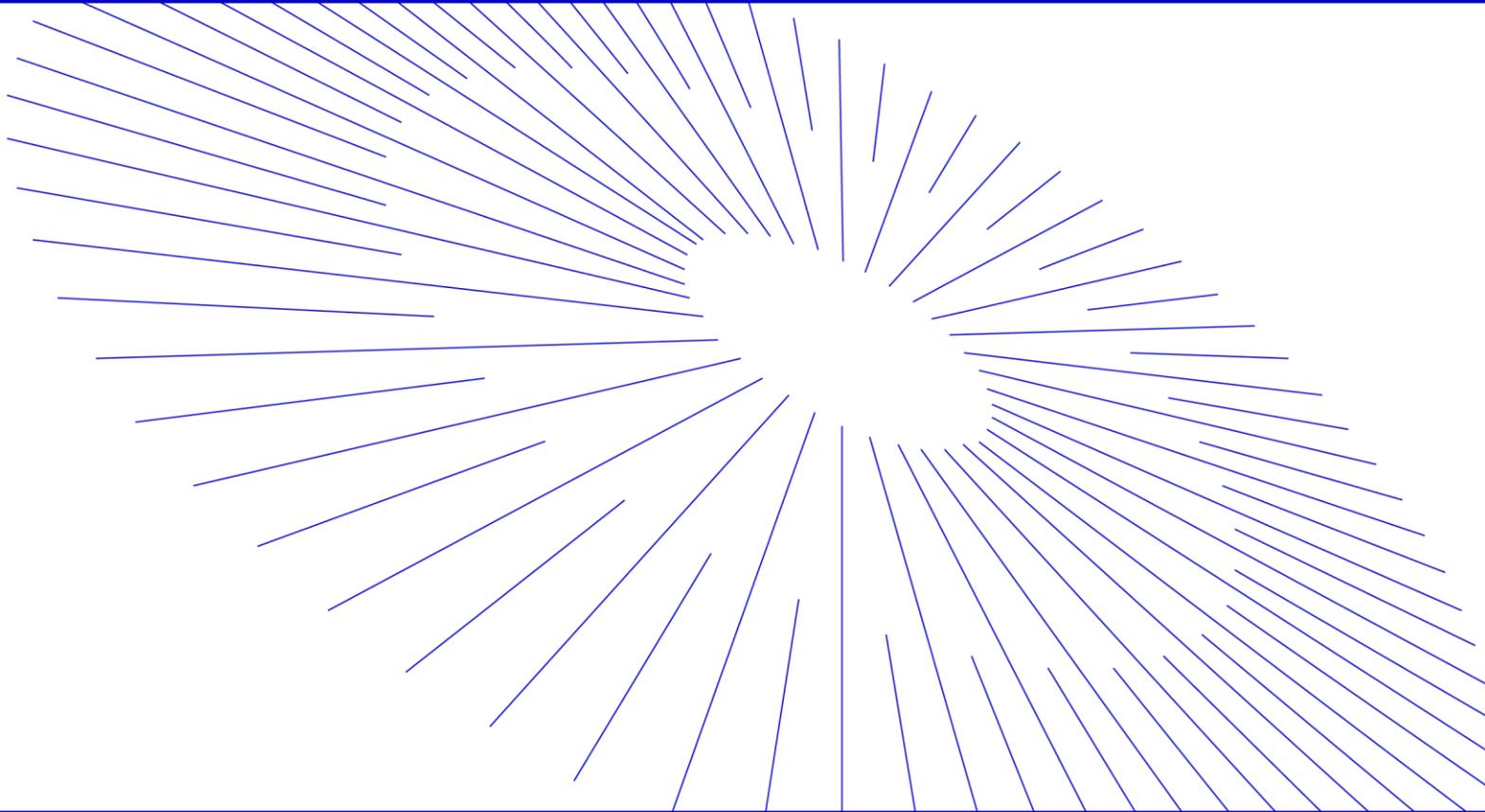


Smart Construction Quick3D 2025.8.26 リリース版について



EARTHBRAIN

Smart Construction Quick3D(以下SC Quick3D)のアップデートについて、以下の日程・内容にてリリースを致します。

日程：日本時間 2025年8月26日(火)(予定) 18:00~20:00

(リリース作業中は、一時的にアプリが使えなくなります。)

- モバイルアプリ：アプリの自動アップデートをONにしていない場合は、App-Storeにて手動でアップデートしてください。
- Webアプリ：本リリース内容については自動的にアップデートされ、ご利用者並びにご利用中のデータにも影響はございません。

アプリ	現行最新	今回リリース
モバイルアプリ	Ver. 2.4.0	Ver. 2.5.0
Webアプリ	Ver. 2.4.0	Ver. 2.5.0

NO.	対象機能	対象	概要	詳細
1	プロジェクト詳細	モバイルアプリ Webアプリ	機能追加です。 Groupwareで出来形ヒートマップを作製した場合、SC Quick3DでそのヒートマップをAR表示できる様に致しました。	P.2-P.18にて説明しております。
1	プロジェクト詳細	モバイルアプリ Webアプリ	機能追加です。 TrendPointで出来形ヒートマップをgeotiff形式で作成した場合、SC Quick3DでそのヒートマップをAR表示できる様に致しました。 ※初回の内部処理に時間がかかる旨をあらかじめご了承願います。	P.2-P.18にて説明しております。
2	プロジェクト詳細	モバイルアプリ Webアプリ	機能追加です。 点群(LiDAR)の画面で、各撮影ポイントにおける精度が色によって確認できるようになりました。また、撮影ポイントを選択する事で、その場所の写真を確認できるようになりました。	P.19にて説明しております。
3	プロジェクト詳細	モバイルアプリ Webアプリ	機能改善です。 生成した点群(LASファイル)に座標系が付与されていなかった為、座標系を付与する様に致しました。また、点群除去した場合にも座標系が付与されていなかった為、改善致しました。 この事によりLandLogViewerへのアップロードの際に座標系選択が不要となります。	P.20にて説明しております。



出来形ヒートマップをAR表示できる様になりました。

出来形ヒートマップ表示用の元データ作成方法は2通り（Case1 : Groupware, Case2 : TrendPoint）

主なフローを下記に示します。

（事前に出来形ヒートマップ作成用の設計ファイル（LandXML）と点群（LASファイル）のご準備をお願いします）

Case 1

Geojson
を用いて表示

STEP1

Smart Construction
Groupwareで出来形
ヒートマップを作成
※Smart Construction
Dashboardの
契約が必要

STEP2

Geojson
ファイルを
出力

STEP3

Smart Construction
Quick3DでSTEP2で出力
したGeojsonファイルを
アップロード
※プラスARプランが必要

STEP4

Smart
Construction
Quic3Dで
ARで表示
※プラスAR
プランが必要

Case 2

Geotiffと
LandXML
を用いて表示
※処理時間が
かかりますので
AR表示で利用する
前に事前に準備
頂ければと思います。

STEP1

TrendPointで
出来形ヒートマップを
作成
※TrendPointの契約
が必要

STEP2

Geotiff
ファイルを
出力

STEP3

Smart Construction
Quick3Dで
LandXMLファイルと
STEP2で出力した
Geotiffファイルを
アップロード
※プラスARプランが必要

STEP4

Smart
Construction
Quic3Dで
ARで表示
※プラスAR
プランが必要



Case1 (STEP1~STEP2)

Groupwareを用いて、GeoJsonファイルを出力

Case 1

Geojson
を用いて表示

STEP1

Smart Construction
Groupwareで出来形
ヒートマップを作成
※Smart Construction
Dashboardの
契約が必要

STEP2

Geojson
ファイルを
出力

STEP3

Smart Construction
Quick3DでSTEP2で出力
したGeojsonファイルを
アップロード
※プラスARプランが必要

STEP4

Smart
Construction
Quic3Dで
ARで表示
※プラスAR
プランが必要

Case 2

Geotiffと
LandXML
を用いて表示
※処理時間が
かかりますので
AR表示で利用する
前に事前に準備
頂ければと思います。

STEP1

TrendPointで
出来形ヒートマップを
作成
※TrendPointの契約
が必要

STEP2

Geotiff
ファイルを
出力

STEP3

Smart Construction
Quick3Dで
LandXMLファイルと
STEP2で出力した
Geotiffファイルを
アップロード
※プラスARプランが必要

STEP4

Smart
Construction
Quic3Dで
ARで表示
※プラスAR
プランが必要

「Groupware」にデータ(LAS, LandXML)をアップロード

PortalでSmart Construction Groupwareを選択



「現場」を選択

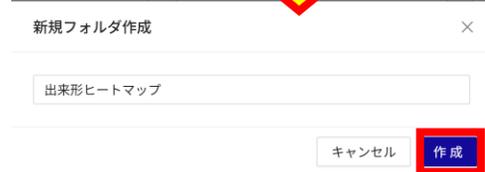


利用する現場を選択

「新規フォルダ作成」を選択



フォルダ名を入力後「作成」を選択



作成したフォルダを選択



出来形ヒートマップを作成する「LASファイル」と「LandXMLファイル」をドラッグ&ドロップしてアップロード



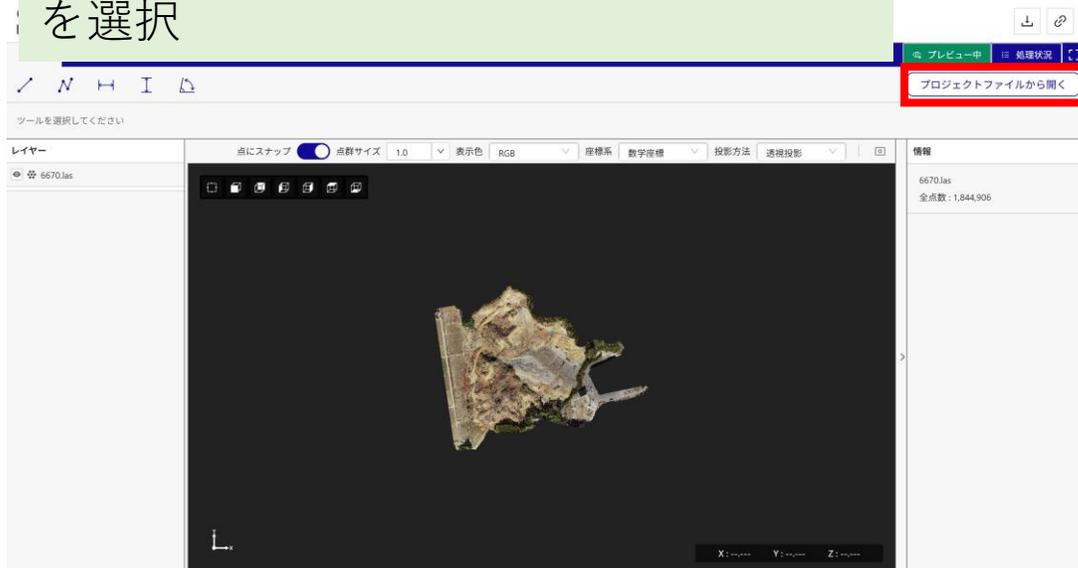
LASファイルを開く





「出来形ヒートマップ」作成の為の準備（プロジェクトファイルの作成）

「プロジェクトファイルから開く」
を選択



プロジェクトファイル選択

ファイルを **「新規プロジェクトファイル作成」**
を選択

+ 新規プロジェクトファイル作成



新規プロジェクトファイル作成

保存場所：出来形ヒートマップ

← [] + 新規フォルダ作成

ファイル名
出来形ヒートマップ.gweproj

キャンセル **作成**



メッセージ

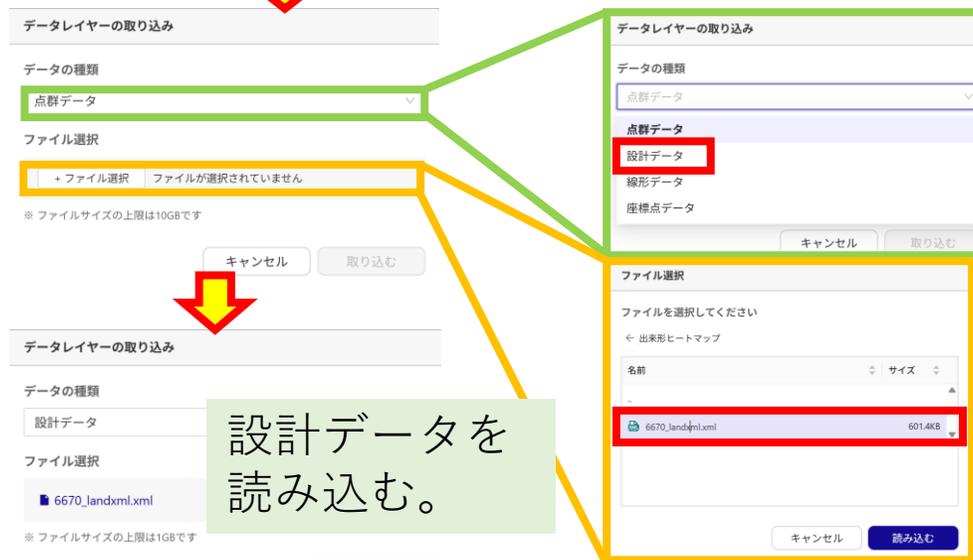
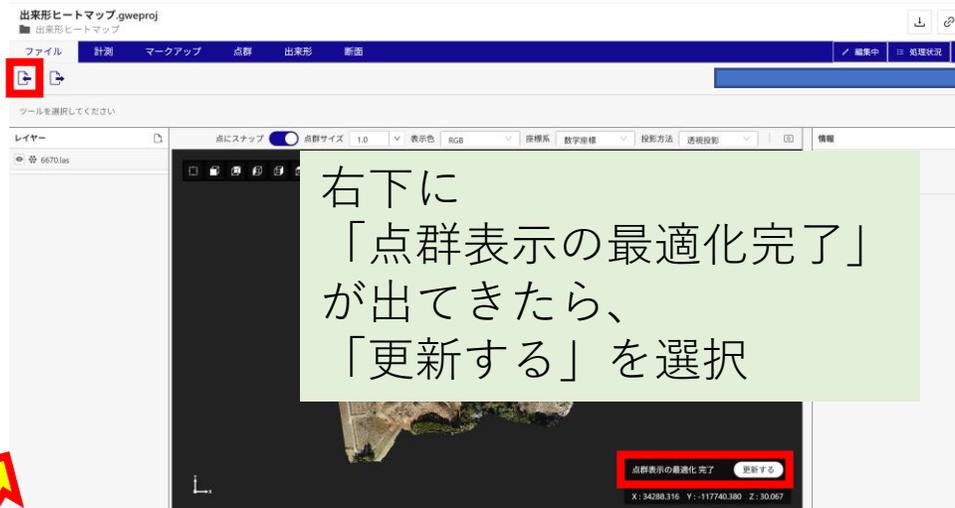
プロジェクトファイルを作成しました。プロジェクトページに移動します

閉じる

「閉じる」を選択



「出来形ヒートマップ」作成の為の準備 (プロジェクトファイルにデータアップロード)





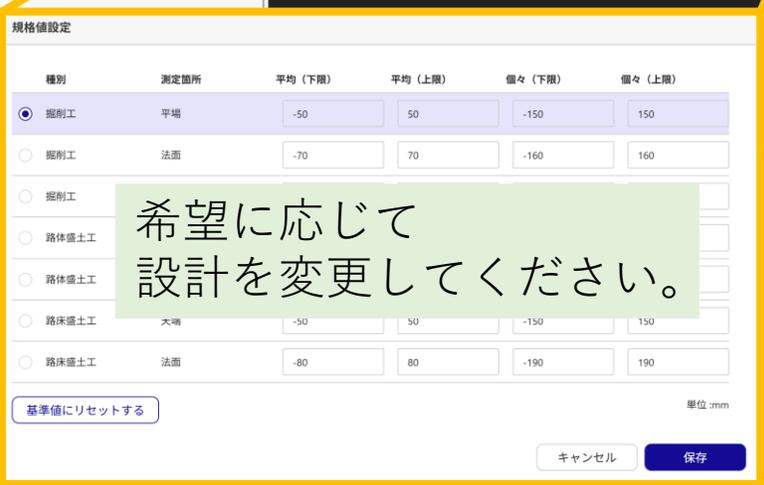
「出来形ヒートマップ」作成の為の準備（各種設定）



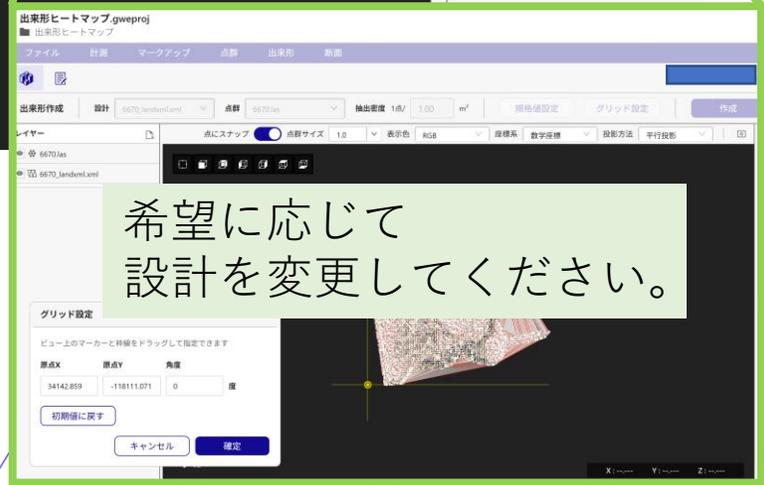
「出来形」を選択

「設計ファイル」と「点群ファイル」を選択

設定に問題がなければ「作成」をクリックしてください。



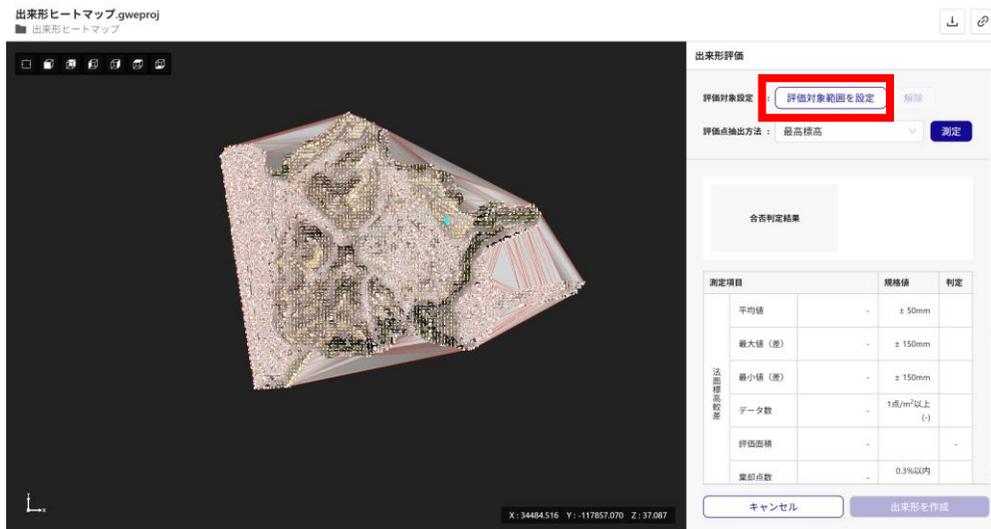
希望に応じて設計を変更してください。



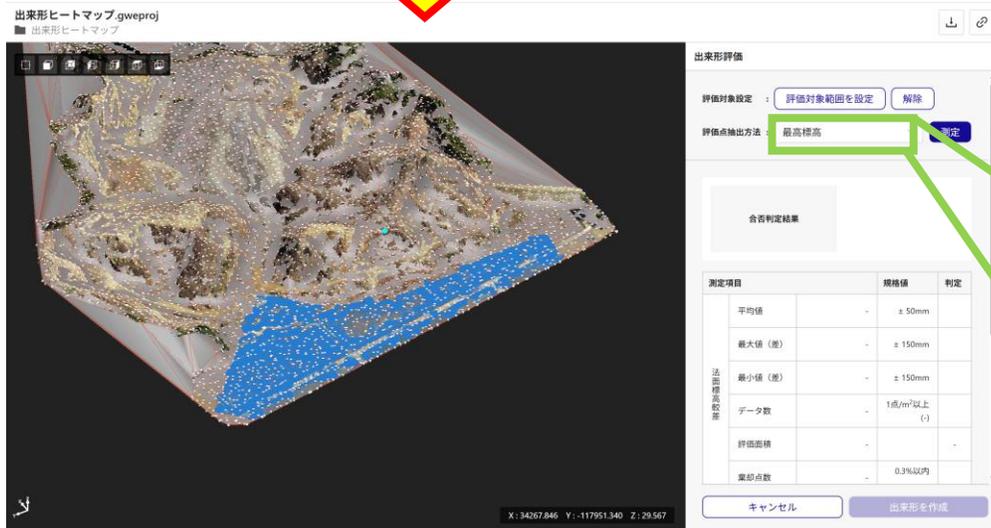
希望に応じて設計を変更してください。



「出来形ヒートマップ」作成の為の準備（各種設定・作成）



評価対象範囲を設定
をクリックする事で
「出来形ヒートマップ」
作成範囲を指定することができます。



設定が問題なければ「測定」をクリック

出来形評価方法を
必要な設定に変更可能です。

「出来形ヒートマップ」の結果出力

出来形ヒートマップ.gweproj
出来形ヒートマップ

法面のぼらつき	
規格値の±80%以内のデータ数	10499 (61.40%)
規格値の±50%以内のデータ数	7986 (46.70%)

規格値比(%)

+100
+80
+50
+20
±0
-20
-50
-80
-100

色がついている部分は規格内
黒色になっている部分は規格外

4.346 Y: -117978.530 Z: 22.417

出来形評価

評価対象設定 : 評価対象範囲を設定 解除

評価点抽出方法 : 最高標高 測定

合否判定結果

×

不合格

測定項目	規格値	判定
平均値	-139.9mm ± 50mm	×
最大値 (差)	617.1mm ± 150mm	×
最小値 (差)	-2,547.9mm ± 150mm	×
データ数	17,099 (1点/m ² 以上 (17,099点以上))	○
評価面積	17,099.00m ²	-
高加点数	0.3%以内	×

キャンセル 出来形を作成

出力設定

出来形計測データ

バージョン: J-LandXML Ver.1.2

ダウンロード

出来形評価用データ

点群ファイル形式: CSV LAS

ダウンロード

※CSVデータは「ENZIRGB」形式で出力されます。

出来形管理図表

出来形管理図表の形式: PDF Excel

図表の設定: 特記事項を印字する

ダウンロード

キャンセル プレビュー 作成

「出来形を作成」をクリック

「作成」をクリック



「Geojsonファイル」の出力

出来形ヒートマップ.gweproj
出来形ヒートマップ

ファイル 計測 マークアップ 点群 出来形 断面 編集 処理状況

kuwahara toshihiko 編集 最終更新日時: 2025/8/22 - 12:15

出来形作成 設計 6670_landxml.xml 点群 6670.las 抽出密度 1点/ 1.00 m² 規格値設定 グリッド設定 作成

レイヤー 6670.las 6670_landxml.xml 出来形 ヒートマップ 出来形計測データ 出来形評価用データ

点にスナップ 点群サイズ 1.0 表示色 RGB 座標系 数学座標 投影方法 平行投影

ローカルにダウンロード

規格値比(%)

+100
+80
+50
+20
±0
-20
-50
-80
-100

情報

6670.las
全点数: 1,844,906

ヒートマップ
評価点抽出方法: 最高標高

可否判定結果
不合格

測定項目 (法面標高較差)

平均値	: -139.9mm
最大値 (差)	: 617.1mm
最小値 (差)	: -2,547.9mm
データ数	: 17,099
評価面積	: 17,099.00
棄却点数	: 5,339点

規格値 (法面標高較差)

平均値	: ± 50mm
最大値 (差)	: ± 150mm
最小値 (差)	: ± 150mm
データ数	: 1点/m ² 以上 (17,099点以上)
評価面積	: -

X: 34236.016 Y: -117913.890 Z: 19.427

「ヒートマップ」の右側にある三点リーダーをクリックする
「ローカルにダウンロード」をクリックすると
「Geojsonファイル」がダウンロード可能です。



Case2 (STEP1~STEP2)

TrendPointを用いて、Geotiffファイルを出力

Case 1

Geojson
を用いて表示

STEP1

Smart Construction
Groupwareで出来形
ヒートマップを作成
※Smart Construction
Dashboardの
契約が必要

STEP2

Geojson
ファイルを
出力

STEP3

Smart Construction
Quick3DでSTEP2で出力
したGeojsonファイルを
アップロード
※プラスARプランが必要

STEP4

Smart
Construction
Quic3Dで
ARで表示
※プラスAR
プランが必要

Case 2

Geotiffと
LandXML
を用いて表示
※処理時間が
かかりますので
AR表示で利用する
前に事前に準備
頂ければと思います。

STEP1

TrendPointで
出来形ヒートマップを
作成
※TrendPointの契約
が必要

STEP2

Geotiff
ファイルを
出力

STEP3

Smart Construction
Quick3Dで
LandXMLファイルと
STEP2で出力した
Geotiffファイルを
アップロード
※プラスARプランが必要

STEP4

Smart
Construction
Quic3Dで
ARで表示
※プラスAR
プランが必要



出来形ヒートマップ作成のための「プロジェクトの作成」

TrendPointにて「出来形ヒートマップ」の「GeoTiffファイル」出力の為には TrendPointの契約が必要となります。
以下に手順を示します。

「出来形プロジェクト作成」をクリック

適切なものを選択

「確定」をクリック



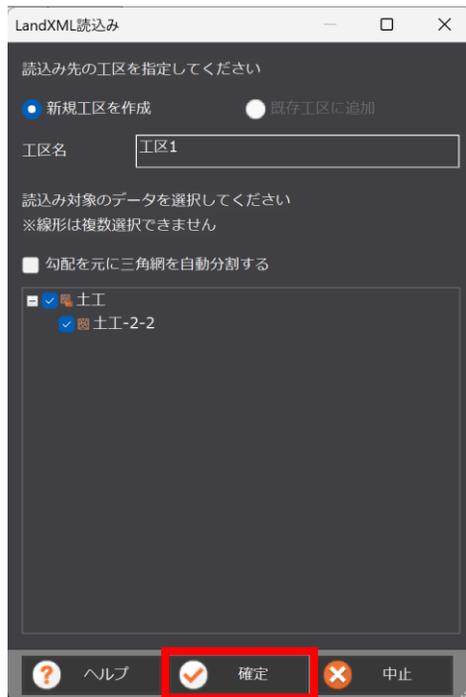


「設計データ読み込み」

「設計データ読み込み」をクリック



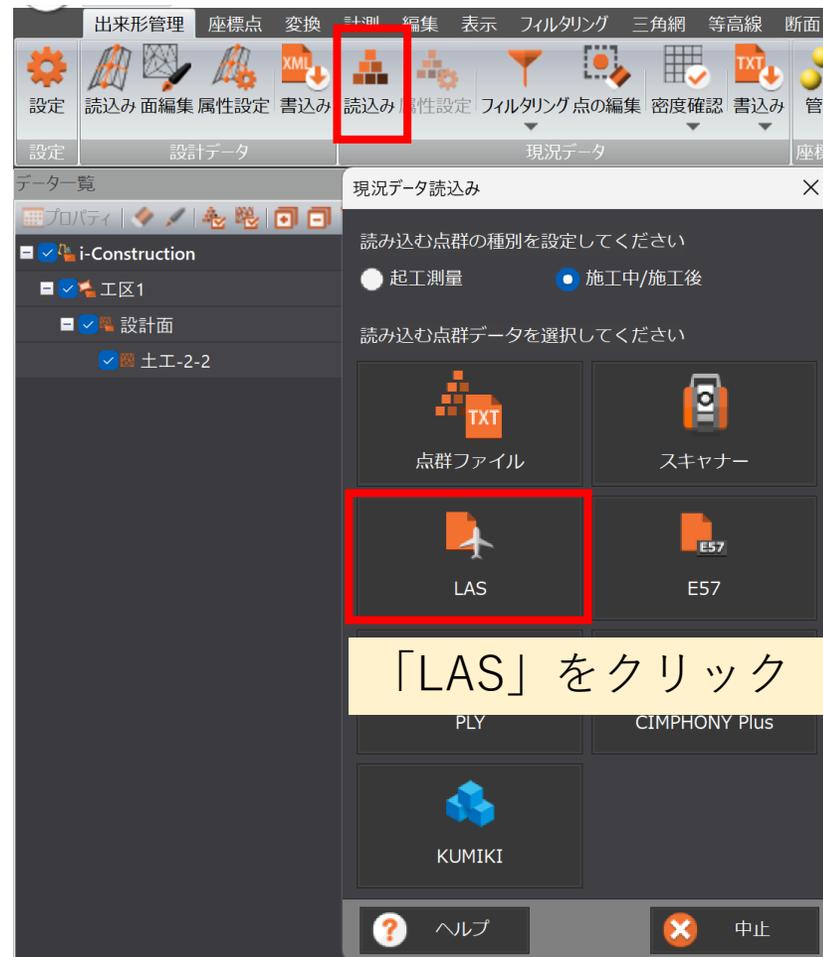
「LandXML」をクリック



「確定」をクリック

「現況データ読み込み」

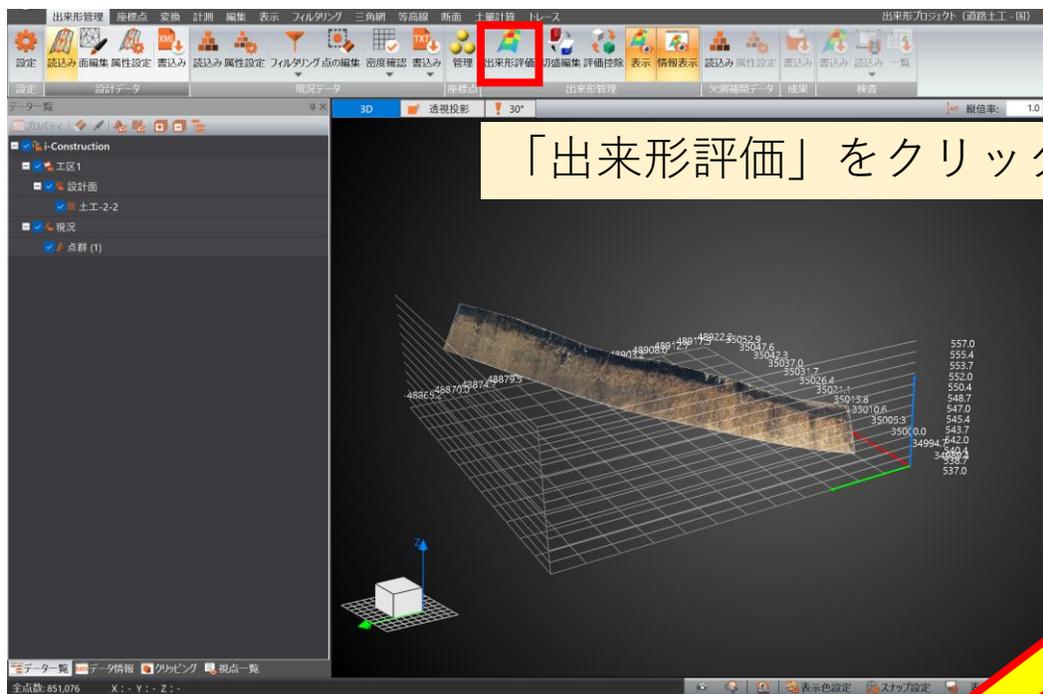
「現況データ読み込み」をクリック



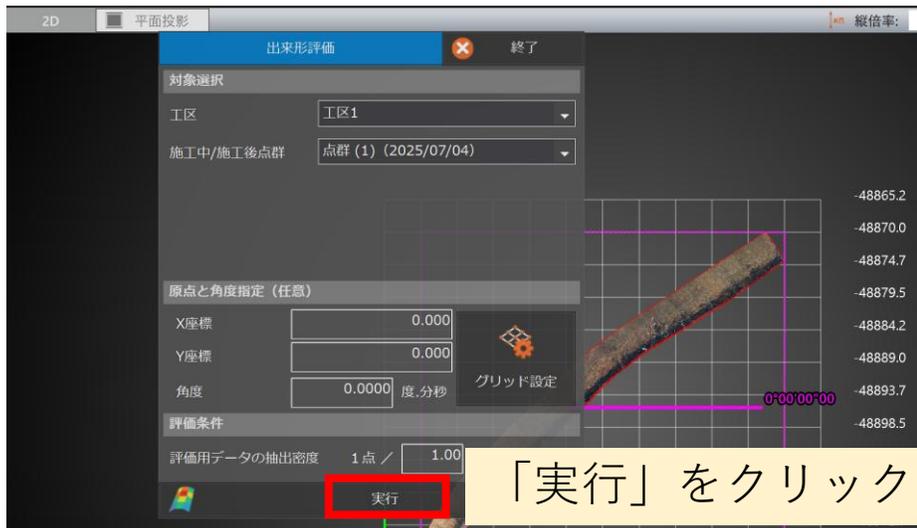
「LAS」をクリック



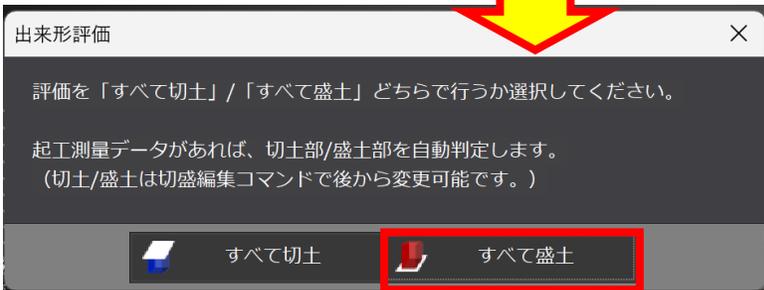
「出来形評価」



「出来形評価」をクリック



「実行」をクリック



「すべて盛土」をクリック



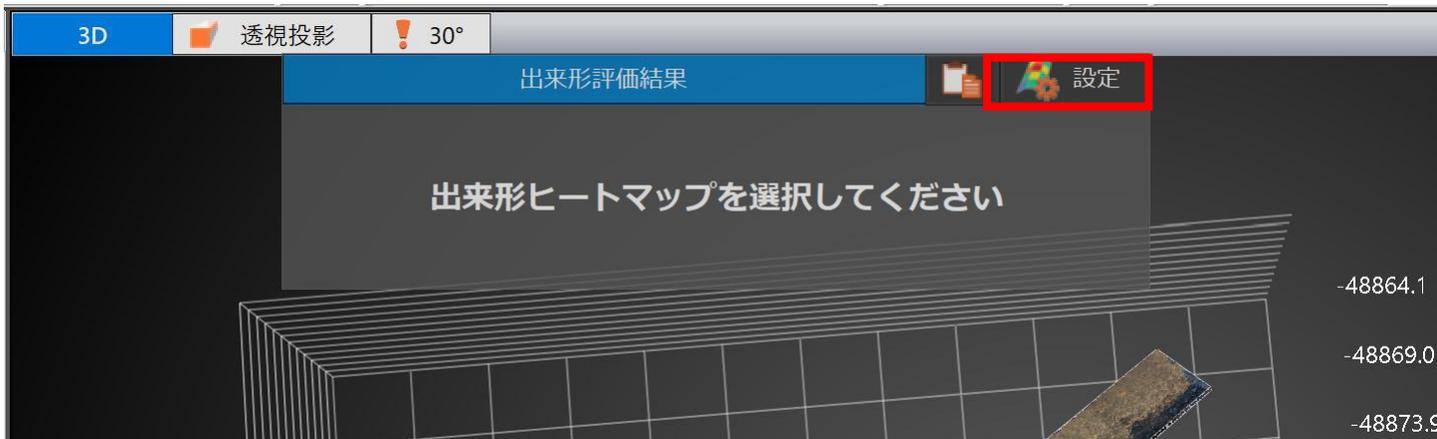
「確定」をクリック



「出来形ヒートマップ」の設定変更

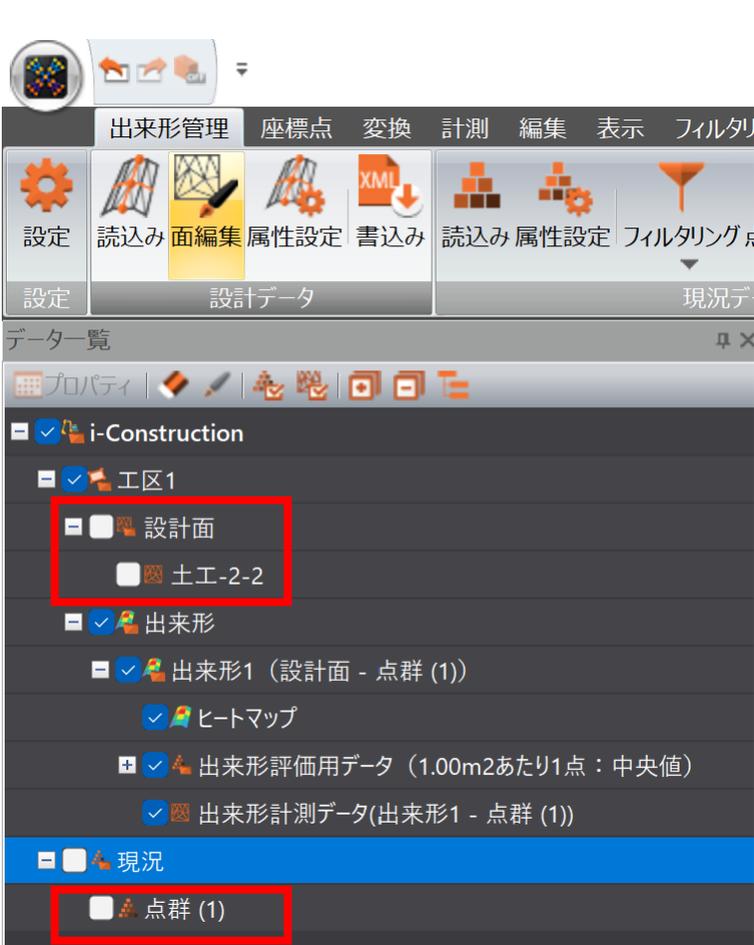
「設定」をクリック

「設計面に沿わせる」に
チェックを入れる

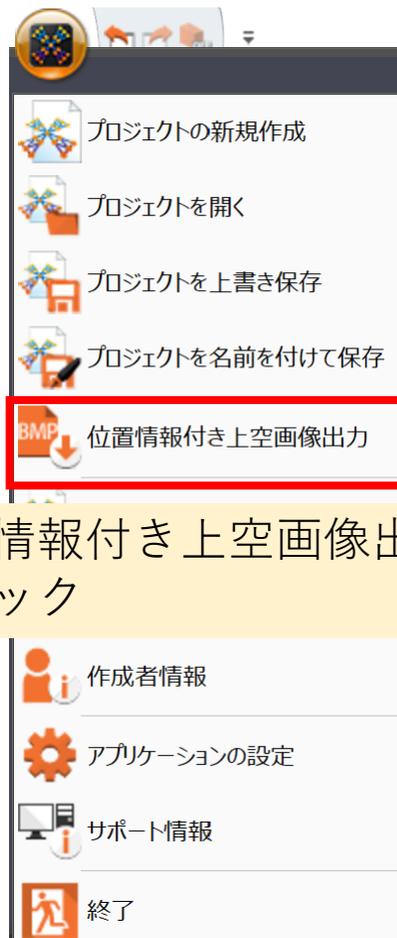




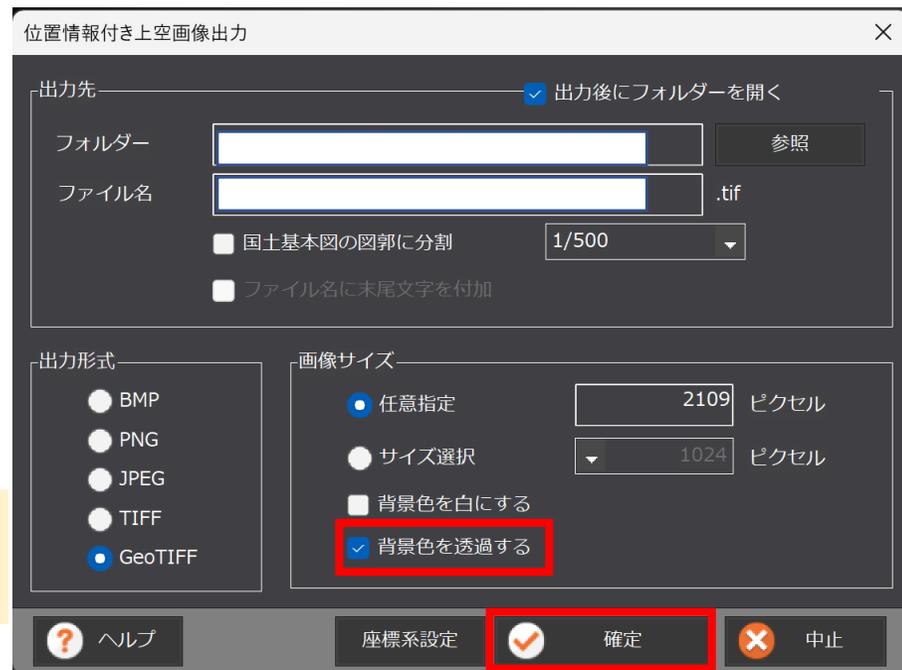
「出来形ヒートマップ」の出力



「出来形」以外（「設計面」、「現況」）のチェックを外す



「位置情報付き上空画像出力」をクリック



「背景色を透過する」にチェックを入れて確定をクリックする事で「**出来形ヒートマップ作製に必要なGeoTiffファイル**」が出力されます。

従来

アップロード

データの種類

設計データ(IFC, LandXML) ?

設計データ(IFC, LandXML)

点群データ(LAS)

撮影データ(zip)

プロジェクト名を入力してください

プロジェクト名入力

アップロード先現場を選択してください

本リリース後

アップロード

データの種類

設計データ(IFC, LandXML) ?

設計データ(IFC, LandXML)

点群データ(LAS)

出来形ヒートマップ(TIFF, LandXML)

出来形ヒートマップ(GeoJSON)

撮影データ(zip)

アップロード先現場を選択してください

Case 1

Geojson を用いて表示

STEP1 Smart Construction Groupwareで出来形ヒートマップを作成
※Smart Construction Dashboardの契約が必要

STEP2 **Geojson** ファイルを出力

STEP3 Smart Construction Quick3DでSTEP2で出力したGeojsonファイルを上アップロード
※プラスARプランが必要

STEP4 Smart Construction Quick3DでARで表示
※プラスARプランが必要

Case 2

GeotiffとLandXMLを用いて表示
※処理時間がかかりますのでAR表示で利用する前に事前に準備頂ければと思います。

STEP1 TrendPointで出来形ヒートマップを作成
※TrendPointの契約が必要

STEP2 **Geotiff** ファイルを出力

STEP3 Smart Construction Quick3DでLandXMLファイルとSTEP2で出力したGeotiffファイルを上アップロード
※プラスARプランが必要

STEP4 Smart Construction Quick3DでARで表示
※プラスARプランが必要

アップロード

データの種類

出来形ヒートマップ(GeoJSON) ?

GeoTIFFファイルを選択してください

ファイル選択

設計データファイルを選択してください

ファイル選択

プロジェクト名を入力してください

プロジェクト名入力

アップロード先現場を選択してください

選択してください

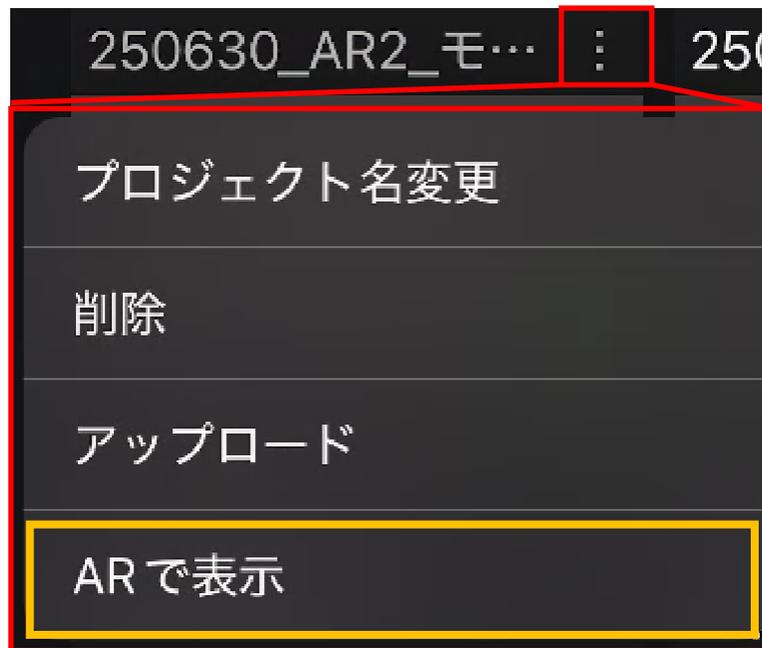
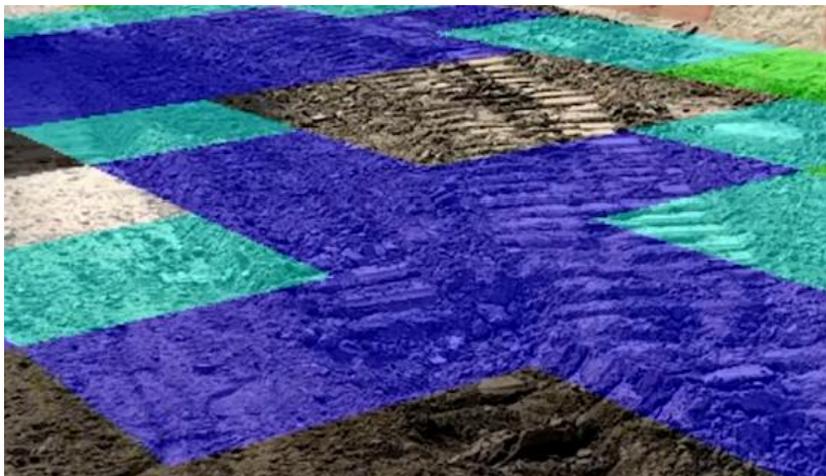
座標系 : なし

垂直座標系 : なし



本リリース後

出来形ヒートマップイメージ

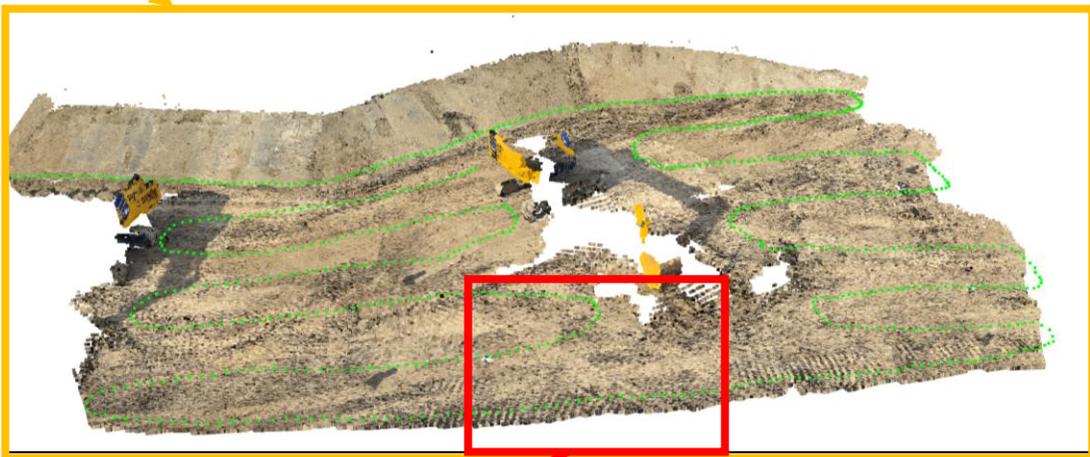
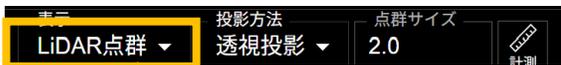


Case 1 Geojson を用いて表示	STEP1 Smart Construction Groupwareで出来形ヒートマップを作成 ※Smart Construction Dashboardの契約が必要	STEP2 Geojson ファイルを出力	STEP3 Smart Construction Quick3DでSTEP2で出力したGeojsonファイルをアップロード ※プラスARプランが必要	STEP4 Smart Construction Quick3DでARで表示 ※プラスARプランが必要
Case 2 Geotiff とLandXML を用いて表示 ※処理時間がかかりますのでAR表示で利用する前に事前に準備頂ければと思います。	STEP1 TrendPointで出来形ヒートマップを作成 ※TrendPointの契約が必要	STEP2 Geotiff ファイルを出力	STEP3 Smart Construction Quick3DでLandXMLファイルとSTEP2で出力したGeotiffファイルをアップロード ※プラスARプランが必要	STEP4 Smart Construction Quick3DでARで表示 ※プラスARプランが必要

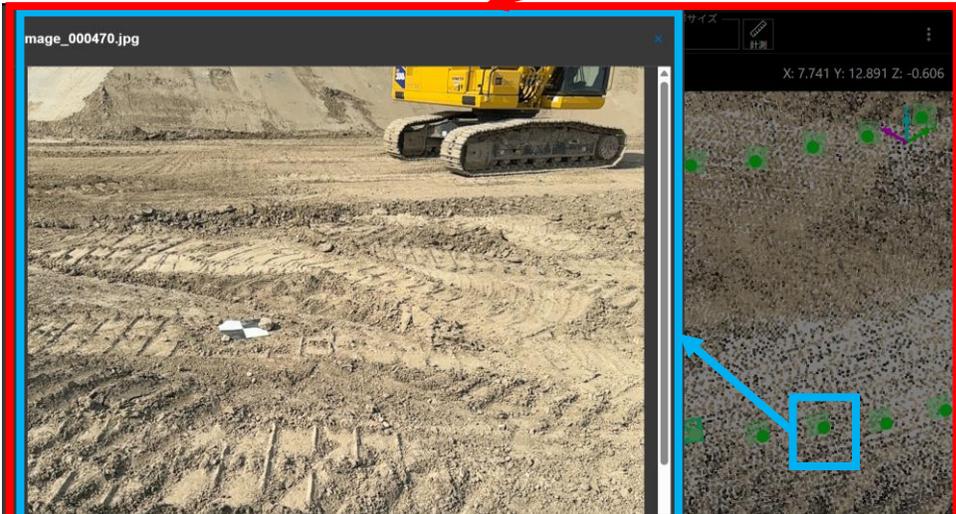
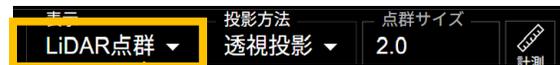
プロジェクト一覧で、プロジェクトの右上三点リーダーから「ARで表示」を押し、AR表示が可能です。(通常のAR表示と同じ)



従来



本リリース後



クリックする事でその場所の写真を閲覧可能にしました。

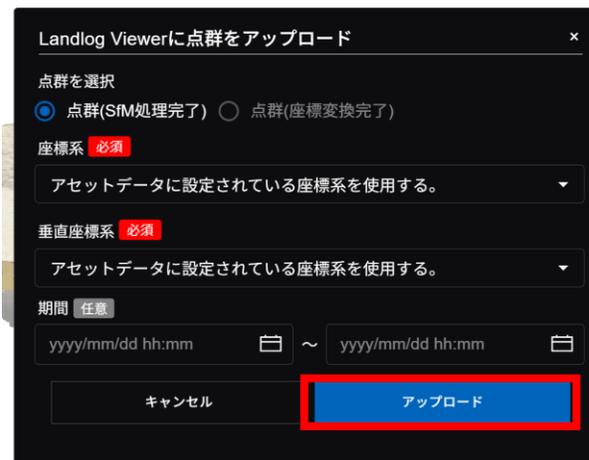
従来



←アップロード時に
それぞれ指定が必要でした。



本リリース後



←アップロード時に
座標系指定は不要に
なりました。

生成した点群に座標系が埋め込まれていない状態でした。
この為、従来ではLandlogViewerへのアップロードの際、
座標系を随時指示する必要がありました。

生成した点群に座標系が埋め込まれる様になりました。
この事で、LandLogViewerへのアップロードの際に、
そのままアップロードできる様になりました。

